

### 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 三浦 麻世

論 文 題 目


Adverse effects of endometriosis on pregnancy: a case-control study

(子宮内膜症合併妊娠に関する後方視的検討)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

豊岡 伸哉 


名古屋大学教授

委員

有馬 寛 

名古屋大学教授

委員

内田 広夫 

名古屋大学教授

指導教授

高橋 義行 

## 論文審査の結果の要旨

今回、子宮内膜症は前置胎盤発症の独立したリスク因子であることを明らかにした。子宮内膜症合併妊娠の中でも特に、手術療法の既往のある症例や、術後5年以上経過して妊娠した症例において前置胎盤発症のリスクが高くなることを明らかにした。本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 病巣部位による前置胎盤リスクへの影響について、子宮内膜症の病変部位は一部を除いて腹腔鏡検査によって初めて診断される部位もあるため、正確な把握は難しく検討を行うことが出来なかった。既報では、子宮筋層内に子宮内膜症の病変を有する子宮腺筋症においても同様の報告がなされている。今回の検討では、子宮腺筋症合併妊娠の症例が少なく、統計学的な検討を行うことが出来なかった。
2. 手術術式による前置胎盤リスクへの影響について、本研究では他院で手術療法を受けた症例も多く、詳しい術式の解析には至らなかった。しかし既に知られている事として、例えば既往帝王切開・癒痕子宮では前置胎盤との関連が知られており、手術操作の内容を明らかにすることによって前置胎盤のリスクとなる操作が明らかになる可能性がある。
3. 本研究の患者背景が結果に及ぼす影響について、本研究における前置胎盤の有病率は他施設の報告と比べて高く、他の研究と比べると少ない症例数でも両群間のリスクの差を検出できた可能性がある。一方で、本施設には高次施設での管理を要する症例が多く集まるため、対照群の妊婦も一般妊婦より早産などの合併症発症リスクが高くなり、両群間の差が消失した可能性がある。この影響は、多施設での研究を行うことで解消できる可能性がある。前置胎盤発症は母体の高齢、生殖補助医療による妊娠、経産婦などがリスクとされるため、これらについて多変量解析を行い、子宮内膜症そのものが前置胎盤のリスクであることを確認した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	三 浦 麻 世
試験担当者	主査	豊岡伸哉	副査 <sub>1</sub>	有馬寛
	副査 <sub>2</sub>	内田広夫	指導教授	高橋義行
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病巣部位による前置胎盤リスクへの影響について</li> <li>2. 手術術式による前置胎盤リスクへの影響について</li> <li>3. 本研究の患者背景が結果へ及ぼす影響について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、産婦人科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				